

6.1 カリキュラムの編成

進捗状況報告

<p>【6.1.1 教育課程】 カリキュラムの完成年度のため、課程をさまざまに検討している。まず神学部として伝道者の育成を充実させるために実践的科目を見直し、さらには先修条件の見直しによって各科目の体系化を推進し、しかし同時に窮屈な教育課程にならないため先修条件の緩和や自由履修科目の単位増加によって柔軟性をもたせる工夫をした。また同時に、思想文化コースについても自由履修について8単位の増加などによりいっそうの充実を計り、全体としてしなやかでありつつも神学教育として筋の通った教育課程を目指している。英語教育についても、神学部としてふさわしいあり方を現在検討中である。</p>
<p>【6.1.2 履修科目の区分】 教養的科目の位置づけ、体系化を検討し、専門領域につなげることについては、カリキュラムが窮屈にならないよう留意しつつ、現在検討中である。</p>
<p>【6.1.3 授業形態と単位の関係】 履修コース制導入後4年目の完成年次を迎え、2008年度に向けてカリキュラムを検討し、必修単位の削減（キリスト教神学・伝道者コースは専門基礎科目6単位の削減、キリスト教思想・文化コースについては専門基礎科目8単位の削減）、先修条件の緩和を試みた。</p>
<p>【6.1.4 単位互換／単位認定等】 神学研究科との連携検討について、神学基礎科目について研究科における単位認定の制度を設けた。</p>
<p>【6.1.5 開設授業科目における専・兼比率等】 選択科目についてカリキュラムにおける重要度を見直した。また専・兼比率について、必修科目と選択必修科目の双方において100%の専任比率を実現している。今後は神学部の状況に応じ、担当者と担当科目の適正さについて、いっそう検討を進め授業の充実を図っていく。</p>
<p>【6.1.6 カリキュラムと国家試験】 【6.1.7 インターンシップ、ボランティア】 単位認定に向けて認定のための要件などを検討し、まずは自由履修の枠を拡大し、単位認定の可能性に向けて前進した。</p>
<p>【6.1.8 生涯学習への対応】 施設・設備の状況、授業運営における聴講生と科目等履修生の影響を勘案しながら、まずは聴講科目制限に関する見直しを検討するが、限られた条件の中で実現の困難さに直面している。キリスト教の基礎知識を学習できる機会について、そのあり方を検討し、実現の可否について検討中である。</p>
<p>【6.1.9 正課外教育（エクステンション等）】 教会・社会での活動を単位として認定については、今後の課題としたい。</p>

学内第三者評価

<p>認証評価で指摘された必修科目が低学年次に集中していることについては解消の努力がなされていると評価できる。単なる自由履修科目への振替でなく、「思想・文化コース」の教育科目を充実させることにより、内容を多様で豊富なものにする方向が望ましい。MDS、単位互換などを他学部との協力の下に実施することも効果の見込める方法である。インターンシップやボランティアを教会・病院・福祉施設などを行うことも適切な方向である。</p>
<p>なお、特別委員からは以下の意見があった。 ・改善は進んでいるものと評価できる。認証評価の指摘を受けて、カリキュラムの自由度を高めたことは評価できる。</p>